

ひかり野

Saga
University
Library
Bulletin

No.42
October 2018

佐賀大学附属図書館

佐賀大学附属図書館

目次

CONTENTS

史料散策をめぐるこぼれ話 館長	1
論文にまつわる今昔 副館長	2
佐賀大学附属図書館所蔵のスピノザ『神学政治論』初版本について	3
ラーニング・コモンズの利活用	4
図書館サポーター＝さらりーずの活動	5
オープンキャンパス	5
図書館脱出ゲーム	6
講演会・貴重資料展示	7
図書館オリエンテーション・講習会	8
有田キャンパス図書室の利用	8
「小城藩日記データベース」の公開、「貴重書コレクションのデジタル画像の利用に関する要項」の制定	9
図書館の施設整備	9
図書館統計	10
受入資料紹介	14
人事異動	14
図書館日誌(行事・会議・研修等)	15
貴重書紹介 小城鍋島文庫「行政官達(戊辰軍功賞典につき)」	





史料散策をめぐる こぼれ話

館長 山崎 功

子どものころ、寄り道やいつもと違う場所で虫取りやどんぐり拾いをすると、うれしい発見をしたり、がっかりしたり、少し怖い体験をしたことがあった気がします。このごろ、静謐な図書館の書架の間でたまたま手にとった本を拾い読みしたり、端末を使って様々な資料データベース検索を行っていると、幼いころの妙な既視感を感じることがあります。膨大な史料情報の山に茫然となり、落穂を拾うような史料散策をするなかで、ときに「縁」があったというほかない出会いにごく稀に巡り合うことがあります。

日蘭通交調査会にかかわる人脈 ―― 副島道正、原口竹次郎、副島八十六

筆者が追いつけている佐賀出身の南方専門家、日印協会理事副島八十六(1875-1950)にかかわる史料散策の小さなエピソードです。戦前から戦後にいたるオランダ=インドネシア(蘭印)=日本人脈の交差のなかで、第一次世界大戦は近代日本の国際化(国際連盟常任理事国入り)、そして南方進出における画期(旧独領南洋群島の獲得)ともなるものでした。こうした背景のもと、民族学・ミクロネシアに造詣の深い異色の予備役海軍大佐松岡静雄が、当時貴族院書記官長であった実兄柳田國男(のち国際連盟常設委任統治委員会委員)と協力してつくった気になる国際民間人脈がありました。日蘭通交調査会です。そこには名実ともに第一線の文化人の仲間入りを果たした副島八十六の姿もちらりと見えてきました。

松岡静雄は、この調査会を通じて当時第一線の文化人、政治家を集め、第一次大戦後の日蘭文化外交を模索したようです。『調査会々員名簿』(大正10年現在、戦前期外務省記録/アジア歴史資料センター Ref.B03040751600)には、副島道正(副島種臣三男、国際オリンピック委員会委員として昭和15年東京オリンピック招致に尽力)、新渡戸稲造(『武士道』著者、国際連盟事務次長)、新村出(言語学・日本語学、『広辞苑』編者)、白鳥庫吉(満州・蒙古・トルコ系民族研究、中央アジア交流史研究)など、近代日本の民間外交やスポーツ・学術発展をリードした錚々たる名前が挙がっています。そこに佐賀ゆかりの原口竹次郎(1882-1951早大、台湾総督府、ペレン島鉱業主)と日印協会理事副島八十六の名も見つけたことは、思いもかけぬ喜びとなりました。

南方民族学研究で知られる中村茂生は、実兄柳田との協力関係のなかで松岡をとらえ、軍人というよりも南洋事業や移民問題に心砕く事業家・政治家的な側面に着目しています。順調な滑り出しをみた調査会ですが、不況と日蘭関係悪化のなかで会の運営も厳しさを増し、松岡はその強烈な個性もあって海軍のみならず関連各省庁、調査会内部でも孤立を深めていったようです。病も重なり理事を辞任、神奈川の鶴沼に隠棲した晩年は国語学・民族学の研究・著述に専念したといわれます。

旧幕臣と佐賀士族との邂逅 ―― 勝海舟、川村清雄、副島八十六

もうひとつは、副島八十六の旧幕臣との交遊です。佐賀藩士の流れを汲みつつも早くに佐賀を離れ、筆舌に尽くせぬ苦勞の末副島は上京克己苦学します。副島と樋口一葉、孫文らとの交友については久保田文次、土屋直子らにより明らかにされています。押しかけに近いかたちで大隈重信邸に日参し、その懐に飛び込んだエピソードも知られていますが、さらに旧幕臣・勝海舟との交流も、副島の個性的な魅力を示しています。副島自身が後年、「勝海舟先生訪問記」として公表していますが、その交流が単なる懐旧の自慢ではなかったことを示す史料と出会いました。それは、勝の葬儀の際、白直垂をまとして陪柩を許された副島らの写真と逸話です(『維新の洋画家―川村清雄』平成24年、木村駿吉『川村清雄―作品と其人物』大正15年)。写真には副島とともに、勝を恩人とする画家川村清雄らが写っていました。川村は幕末維新期に徳川派遣留学生としてヴェネツィア留学を果たしますが、その画風は当時の画壇にはなかなか受け入れられず「多血質」の性格もあって出奔、勝海舟、小笠原長生らの庇護を受けて画業を続けたといえます。勝の葬儀の際、副島らとともにまとった白直垂をもとに描かれた『形見の直垂』は、川村の代表作のひとつだそうです。また、川村と副島との深い縁を示す『小督弹琴図』があります。副島は、勝の縁戚にあたる幕臣の娘隆子と結婚、長女五十枝をもうけますが、大正14年、五十枝は病に倒れ急逝します(享年二五)。うちひしがれた副島は、五十枝の追憶集『副島五十枝』(大正14年349頁)を上梓します。日印協会理事として社会的にも認められ、娘五十枝の人生もこれからというときに愛する子を失った親の悲しみと悔しさを、副島は狂おしいまでに周囲の人々を巻き込み、吐露します。川村は弔画として『小督弹琴図』を寄せ、口絵に掲載されています(現物は戦災により焼失)。なお同書には、松岡静雄も弔慰の和歌を寄せています。

今年は近代日本とアジア、世界との関わりを考える多様な節目の年です。明治維新150年、戊辰150年。また国際的にも第一次大戦100年を振り返る記念行事やシンポジウムが続いています。あちこちに垣間見える副島ら明治生まれの個性的な人脈は、近現代日本と世界の表裏盛衰を繋ぎ理解する大事な結び目となるような気がします。



論文にまつわる今昔

副館長 池田 義孝

大学入学以来30年以上、大学図書館には色々な形でお世話になってきました。大学図書館というものは利用者という立場で知っているつもりでしたが、副館長・医学分館長に就任して初めて大学の図書館が行なう業務全般について知ることになり、利用する側と運営する側での考え方の違いなどわかってきたところです。教育や研究といった活動の際、雑誌・図書類含め利用できて当たり前前の図書館ですが、そういう環境を提供するには結構なお金と労力がつき込まれていること、運営においては限られた予算や人員などのリソースの振り分けなども含めて、現場のスタッフのみなさんの支援のおかげで成り立っているということのを再認識しています。

最近論文を読む目的で図書館へ行くことはほぼなくなりましたが、自分が大学院生やボスドクであった頃、研究している人の図書館への依存度は今とは比較にならないくらい高いものでした。現在と違って大変だったことの一つは、研究テーマに関係する古い論文をどう探すかでした。ある事柄についての古い関連論文や報告が存在するのかわからないのかまで含めて探すことが必要で、とりあえず手元にある有名論文やレビュー論文の文献リストをもとに自分自身の関連論文リストを充実させ、自分のテーマに関連する研究分野の流れを把握すると同時に、それ以外の周辺の知識や情報についても細かく網羅していかなければなりません。今のようにコンピュータでキーワードを入力してズラッとリストが出てくるわけではなく、当時はIndex Medicusという検索用の雑誌(?)をよく利用して、色々な論文を「発掘」していったものでした。製本された分厚いものが書架に相当古いものからずらりと並んでいるので、そこへ行って年代毎に色々な関連キーワードで検索し、いくつもある関連論文の雑誌名、巻やページを紙にいくつも書き写し、それをもって古い巻号の製本済み雑誌が並べてある書架のあっちこっちで内容を確認していくという作業をしていたものです。関係しそうな論文が収載されている本を何冊もコピー機までもっていきコピーし終わったらまた書架に戻すので、結構な運動量だった記憶があります。ダンベルもって筋トレしながら階段登り降りの運動をしているようなものだったと思います。

私は生物化学分野の人間なのですが、当時の医学生物学分野の研究者が論文ではほぼ全員が(形だけでも)引用する文献というものが(違う分野の方には申し訳ありませんが、Laemmliのアレとかです)、自分もその論文を実際に図書館の書架まで見に行くと、その論文の部分だけもうボロボロでページもとれてしまっており、数えきれないくらい何度もめくられたせいか余白も真っ黒になっているのが印象的であった覚えがあります。そういう時代に比べると、何時でもどこでも常に綺麗なデジタルデータとして論文が利用できるのはまさに隔世の感があります。

かつて論文はタイプされ印刷物としてこの世に出て、その実体はあちこちの大学図書館の書架に置かれているうちにホコリが付き、Laemmliの論文のごとく時間の経過とともに痛んでゆくのが普通でした。現代の研究論文は最初から何十年経とうが全く変化しないデジタルデータの形で出現し、それを書いた本人や読んだ人がいなくなっても、何も変わることなく存在し続けると思うと不思議な気持ちになります。運がよければ、時々世界のどこかの端末に全く変わらない形で姿を現すことになるのでしょうか、そうでなければ、図書館とは別のよくわからないどこかにある記憶媒体の上で静止した電子の偏りか何かの形で人知れずひっそり存在し続けるのでしょうか。そのまま人類滅亡の時まで?と思うと気が遠くなります……こうやってワードで書いているこの拙文も?……論文形態の今昔から人類や文明の有限の繁栄まで思いを巡らせるとホントに頭がクラクラします。



佐賀大学附属図書館所蔵のスピノザ『神学政治論』初版本について

教育学部 後藤正英

佐賀大学附属図書館の貴重書といえ、その大半は和漢籍であるわけだが、その中において異彩を放つ書物がある。それは、17世紀のオランダで哲学者スピノザによって刊行された『神学政治論』の初版本である。

スピノザといえば、デカルトやライプニッツと並ぶ近代西洋の代表的哲学者として知られる存在であるが、彼はユダヤ人の哲学者として、かなり特異な人生を送った人物でもある。スピノザは、イベリア半島から宗教的迫害を逃れてアムステルダムへ移住したポルトガル系ユダヤ人のコミュニティに属していた。彼はユダヤ教徒として育ちながらも、青年期にそのラディカルな思想ゆえにアムステルダムのユダヤ人共同体から破門されることになったが、その後もキリスト教に改宗することなく生涯を全うした。何らかの宗教に帰属することが当然視されていた時代にあつて、これはかなり例外的な生き方であつたといえる。スピノザにこのような生き方を選択させた背景には、当時のオランダでは政教分離に基づく民主的な政治体制が成立しつつあつたという事情があり、スピノザは、宗教の帰属性とは独立に平等な政治的権利が与えられる政治体制に未来を託していたのである。この政教分離の主張は、近代的聖書解釈と並んで、『神学政治論』の議論の核をなしている。

スピノザの生きた時代のオランダは黄金時代を謳歌しており、海洋貿易のネットワークを形成することで、世界のヘゲモニーを握っていた。レンブラント、ルーベンス、フェルメールといった、日本でも馴染みの画家たちが活躍したのもこの時代である。江戸幕府は、この時代のオランダと交易関係を結ぶことになった。『神学政治論』では二カ所で日本に関する言及が見られるが、その内容は布教とは独立に行われる経済的交流の拡大に関するものである。

他国と比較すれば当時のオランダは寛容な社会であつたが、その政治体制はいまだ不安定であり、『神学政治論』の執筆動機の一つは、不寛容な宗教勢力が政治権力と結託して思想弾圧を行う事態を批判することにあつた。この書物は、検閲の目をかいくぐるために、1670年に匿名で出版地と版元を偽って刊行された。『神学政治論』は、大きな反響を呼び、1674年に公的に発禁処分が下された後も、非公式に何回も刷り直されることになった。

ところで、1670年の初版と銘打たれた『神学政治論』には4つの版が存在していたことが知られている。佐賀大学に収蔵されているのは、そのうちの第3版であり、刊行年代は実際には1677年以降であると推定されている。この書物が佐賀大学にまで到達した経緯については未解明の部分が多い。1962年に大学図書館に収蔵されたことは分かっているが、購買の経緯については完全には確定できていない。2003年の段階で、スピノザ研究者の高木久夫氏が国内の『神学政治論』の所蔵調査を行っているが、高木氏は、佐賀大学の収蔵本が第3版であることを指摘し、第3版は国内では佐賀大にしか所蔵が確認できないこと、海外でも収蔵場所が限られた貴重な書籍であることを述べている(『スピノザーナ』4号)。

17世紀オランダの書籍が附属図書館に収蔵されているという事実は、私には、公的図書館の役割を象徴するものであると思える。どの図書館にも収蔵スペースの問題があり、データベース化されたものや類書が存在する場合には廃棄もやむを得ないケースが増えている。しかし、だからこそ、現物を残す場合には、書籍の価値を適切に判断して、良質の蔵書を残していく必要がある。今回のような貴重書は、佐賀大学附属図書館の蔵書コレクションの価値を高めるものといえる。さらに、書籍の価値を判断する際の基準は、内容の実用性や利用者数などの特定の観点だけに限定されるものではないだろう。図書館とは、時を超えて知が集積する場所であり、それは短期的な社会状況を超越したところがある。大学とその図書館は、変化の激しい時代に順応するだけでなく、悠久の時の流れの中で、落ち着いた探究を確保する場所でもあつて欲しいと願うところである。

ラーニング・コモন্ズの利活用

本館では、学生が主体的に学ぶアクティブ・ラーニング(能動的学修)のために、ラーニング・コモন্ズという新しい多目的学習空間を整備しています。学生はディスカッション、ディベート等のグループワークを行い、学習に取り組んでいます。

ラーニング・コモন্ズは授業、教育・学術研究等を目的とした研修やイベント等の専有利用も可能であり、平成29年度は下表のとおり71回の利用がありました。定期的な利用では、日本人学生と留学生が英語や中国語等で国際交流を図る「ランゲージ・ラウンジ」が開催されています。

	利用回数
授業*	50
研修、イベント等	21

*授業には新入生の図書館オリエンテーションを含む



「ランゲージ・ラウンジ」の様子(グループ学習スペース)

また、ラーニング・コモন্ズは、学生サークル等の展示スペースとしても利用されています。



(多目的スペース)

なお、図書館の企画による利活用として、学生の利用促進を目的としたゲーム式の体験型イベントをラーニング・コモন্ズ全体を使って開催しました。また、新入生の図書館オリエンテーションはアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた内容であり、主にグループ学習スペースを使って実施しました。

図書館では、より一層学生・教職員にラーニング・コモন্ズを利活用いただけるよう、教育・学術研究の支援活動に取り組んでいきます。

図書館サポーター＝さらりーずの活動

平成29年8月28日(月)に学生選書ツアーを丸善ジュンク堂書店福岡店にて行いました。今回は15名もの参加があり、広い店内を巡って多くの図書を選びました。選ばれた図書はまもなく図書館に納められ、本館・医学分館それぞれの学生選書コーナーに配架されました。学生目線で選ばれた様々な図書は毎年好評を得て多く貸し出されています。

医学分館では不定期に図書館サポーターミーティングを行い、季節の展示などを行いました。また新入生向け図書館広報誌「さらり(No.10)」の紙面作成に今年も協力したほか、オープンキャンパスにも参加しました。



選書ツアー中の様子



医学分館展示作成中

オープンキャンパス

平成29年8月10日(木)に行われた佐賀大学のオープンキャンパスの際は図書館にも多くの高校生が来館しました。

本館では佐賀新聞記事データベースを用いて生まれた日の新聞記事を検索・閲覧できるコーナーや来場記念の写真撮影コーナーを設けました。

医学分館では恒例のオリジナルうちわ、しおり作りを催したほか、図書館サポーターの協力で医学部の現役学生が受験期に読んでいた本や受験勉強に使っていた本、入学後によく用いてきた本や作成したノートなどの展示を行い、多くの来場者が手に取って興味深そうに見ていました。また図書館サポーターが来館した高校生を相手に展示資料や館内を案内しました。



新聞記事コーナー（本館）



展示コーナー（医学分館）

図書館脱出ゲーム

本館では、平成29年11月に佐賀大学学生を対象とした図書館脱出ゲーム(第二弾)を開催しました。

図書館脱出ゲームとは、図書館の中を探索しながら謎を解いていく体験型ゲームです。図書館に関心を持ってほしい、図書館をもっと活用してほしいという願いを込め、ゲームを楽しみながら図書館の本や設備、サービスなどを学ぶことができる内容を目指しました。

今回の脱出ゲームは、「真夜中のメッセージ」というタイトルとし、K教授が残したメッセージを解き明かしていくストーリーとしました。



参加者数は338名と昨年より多くの参加がありましたが、問題の難易度が少し上がったためか脱出成功者は202名であり、昨年度よりも脱出成功率は低くなりました。グループで協力しながら解いたり、一人でじっくり解いたり参加スタイルは様々でしたが、みなさん楽しそうに挑戦してくれました。

また、今回も佐賀大学生協に協賛いただき、脱出成功者には、プレゼントを用意しました。

参加者へのアンケート結果によると、「図書館に対する理解が深まった」と回答した学生は89.1%、「脱出ゲームが図書館のことを知るのに有効」と回答した学生は97.0%と図書館に関心を持ってもらうには効果的なイベントであったと考えられます。今後も今回のアンケート結果を参考に図書館の活用を促すようなイベントを開催していきたいと考えています。



講演会・貴重資料展示

<図書館月間>

附属図書館では、図書館活動の目的のひとつである社会貢献のため、地域住民の方に生涯学習の場を提供するとの考えのもと、毎月11月を図書館月間として各種イベントを開催しています。平成29年度は、「佐賀(佐嘉)を知る！ー明治維新150年に向けてー」をテーマに、講演会と資料展示を行いました。

講演会

会場：佐賀大学附属図書館 本館4階会議室
日時：11月5日(日) 10:00~12:00

「幕末佐賀藩を支えたもの」
講演者：佐賀大学地域学歴史文化研究センター
副センター長・准教授
伊藤 昭弘 氏

「新政府と佐賀藩」
講演者：佐賀大学地域学歴史文化研究センター
講師
三ツ松 誠 氏

参加者：43名



講演会の様子



資料展示風景

資料展示

会場：佐賀大学附属図書館 本館1階多目的スペース
期間：11月3日(金)～16日(木)
展示内容：講演内容に関連する資料、図書

<貴重資料講演会>

平成29年度の新たな企画として、佐賀大学附属図書館の代表的なコレクションである「小城鍋島文庫」の概要をわかりやすく紹介することを目的に、「小城鍋島文庫とは??ー佐賀大学附属図書館所蔵貴重資料の世界ー」と題して講演会と資料展示を行いました。(協力：佐賀大学地域学歴史文化研究センター、同全学教育機構、小城鍋島文庫研究会)

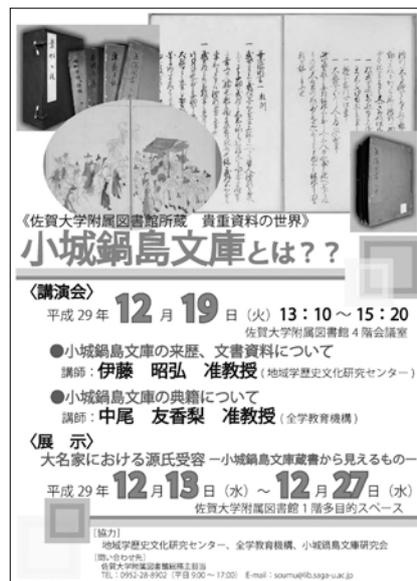
講演会

会場：佐賀大学附属図書館 本館4階 会議室
日時：12月19日(火) 13:10~15:20
「小城鍋島文庫の来歴、文書資料について」
講演者：佐賀大学地域学歴史文化研究センター
副センター長・准教授
伊藤 昭弘 氏
「小城鍋島文庫の典籍について」
講演者：佐賀大学全学教育機構准教授
中尾 友香梨 氏

参加者：36名

資料展示

会場：佐賀大学附属図書館 本館1階 多目的スペース
期間：12月13日(水)～27日(水)
展示内容：「大名家における源氏受容ー小城鍋島文庫蔵書から見えるものー」をテーマに資料6点



貴重資料講演会ポスター

図書館オリエンテーション・講習会

授業の1コマを使用して、新入生向けの図書館オリエンテーション、学部3年生以上向けの講習会を実施しています。毎年、担当職員間で内容を検討のうえ、より良い内容で実施できるよう努めています。平成29年度は以下のとおり実施しました。(実施回数・参加人数は12ページを参照)

<本館>

新入生向け

図書館利用法全般

アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた内容で実施

学部3年生以上向け

文献データベースの検索、文献の入手法を中心とした演習(オンデマンド対応)

<医学分館>

新入生向け

図書館利用法全般

(館内案内、OPAC(蔵書検索)・MyLibrary(図書館ポータル)の使い方の説明)

*新規採用看護師にも同内容のオリエンテーションを実施

学部3年生以上向け

文献データベースの検索、文献の入手法を中心とした演習(院生には文献管理法を含む)



有田キャンパス図書室の利用

平成29年4月佐賀県窯業大学校が佐賀大学に移管されたことに伴い、窯業大学校の所蔵図書(一部寄贈図書を除く)が佐賀大学に譲渡されました。順次整理を行い、図書(備品)799冊、図書(消耗品)2,656冊、雑誌(消耗品)633冊 合計4,088冊の資料が有田キャンパス図書室で利用できるようになりました。



「小城藩日記データベース」の公開 「貴重書コレクションのデジタル画像の利用に関する要項」の制定

＜「小城藩日記データベース」の公開＞

平成30年4月に、附属図書館ホームページから、佐賀大学附属図書館が所蔵する「小城鍋島文庫」のうち、佐賀・小城地域史研究に最も利用される「小城藩日記」の記事検索性データベースを公開しました。本データベースは、本学地域学歴史文化研究センターと大学共同利用機関法人人間文化機構国立歴史民俗博物館の協力協定に基づく研究成果として、本学総合情報基盤センターの協力のもと、作成されたものです。

本データベースでは、「小城藩日記」の記事を要約した「日記目録」をデータ化し、記事検索および当該記事の画像の表示が可能となっています。

本データベースのもとに収納されている全デジタルコンテンツ(外部リンクを除く)は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示-非営利-継承 4.0 国際」(CC BY-NC-SA 4.0)のもとに公開されています。また、日記記事の全書誌データは、書誌項目の構造まで記述したLinked Open Dataの形式で利用可能であり、記事から抽出した人名などの単語リストも、データ解析などに自由に利用できます。さらに、「小城藩日記」の画像データは、デジタル画像の相互運用のための国際規格IIIF(International Image Interoperability Framework)に対応しており、ウェブブラウザ上で拡大・縮小、複数画像の一括表示などの多彩な機能を利用できます。

本データベースの公開が、研究者のみならず、一般市民が「小城藩日記」に親しむきっかけとなることが期待されます。

小城藩日記データベース <https://www.dl.saga-u.ac.jp/ogiNikki/>

＜「貴重書コレクションのデジタル画像の利用に関する要項」の制定＞

平成30年3月に、「佐賀大学附属図書館貴重書コレクションのデジタル画像の利用に関する要項」を制定しました。本学所蔵貴重資料の画像データの利用を促進していくにあたり、利用のルールを明確にすることを目的にしたものです。画像データのオープン化に向け、今後も適宜見直しを行ってまいります。

図書館の施設整備

平成29年度に本館及び医学分館で以下のような施設整備を行いました。

＜本館＞

1階、2階のトイレの改修を行い、利用環境を改善しました。また、1階エントランスのPC 8台を3階へ移設するのにもない、3階閲覧スペースの改修を行いました。フロア中心にある坪庭の北側にPCを設置し、東西の2辺に合計8席の閲覧席を新たに設けました。閲覧席には簡易な仕切り板を設置し、利用者のニーズの高い個別学習スペースの充実に配慮しました。



改修後の本館3階閲覧スペース



医学分館の十字型仕切りとフック設置の閲覧席

＜医学分館＞

1階の4人席の閲覧机の一部に、十字型の仕切りと荷物をかけるためのフックを設置しました。この仕切り設置により「集中して学習できる」といった利用者からの好意的なご意見が寄せられています。

図書館統計

(平成30 (2018)年3月31日現在)

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

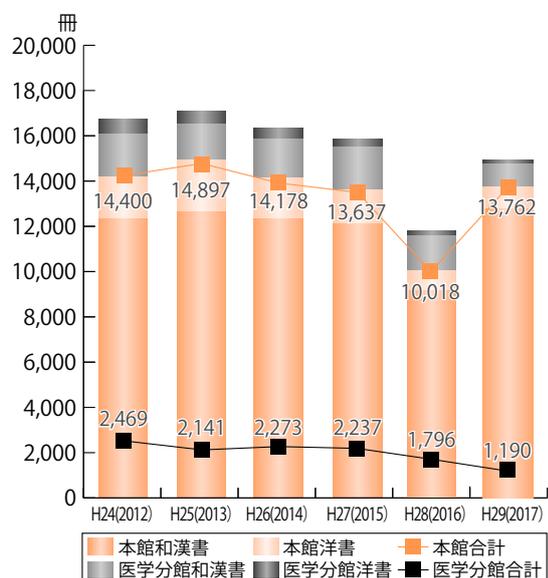
	和漢書	洋書	合計
本館	416,902	174,892	591,794
医学分館	68,521	46,140	114,661
合計	485,423	221,032	706,455

雑誌所蔵種類数

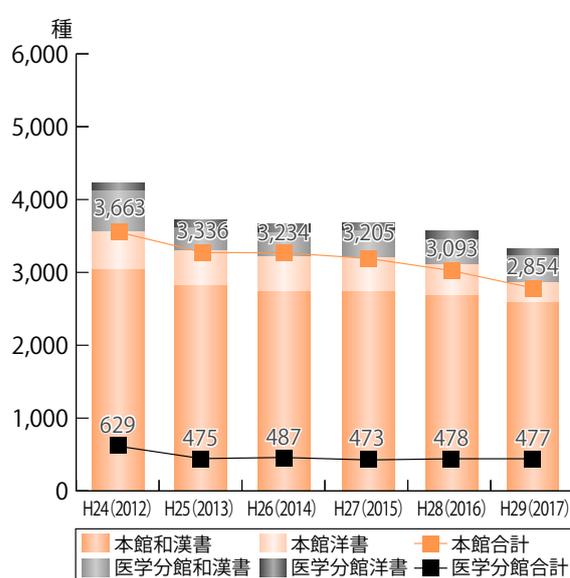
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,541	2,977	9,518
医学分館	1,239	1,119	2,358
合計	7,780	4,096	11,876

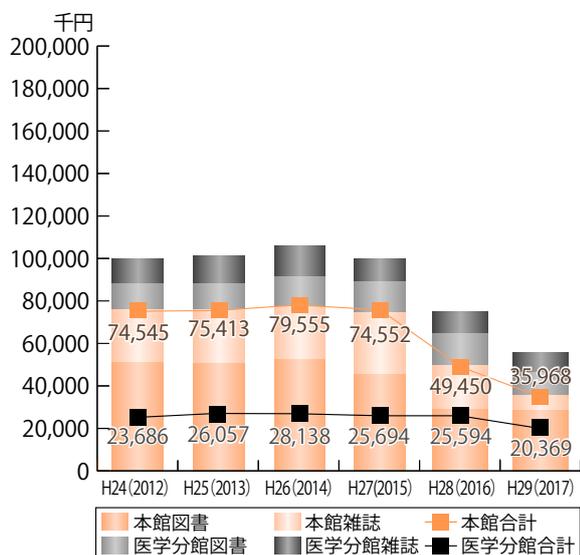
図書受入冊数



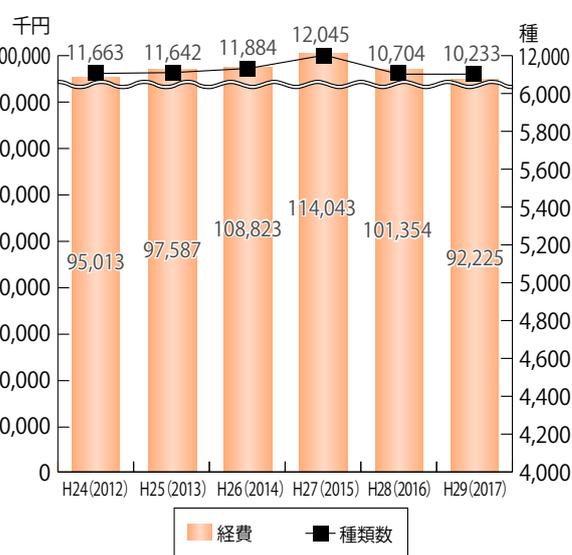
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



サービス統計

開館日数

〈平成29(2017)年度〉(日)

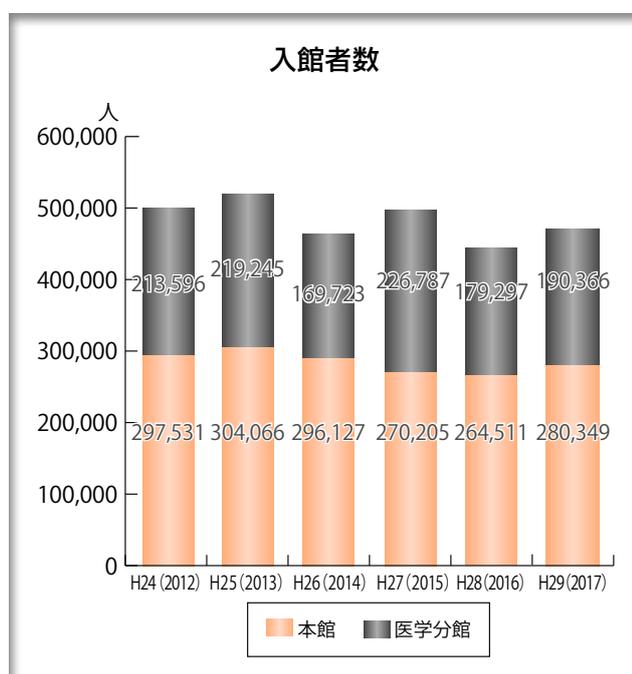
	本館	医学分館
平日	236	240
土・日・祝日	106	106
合計	342	346

利用対象者数

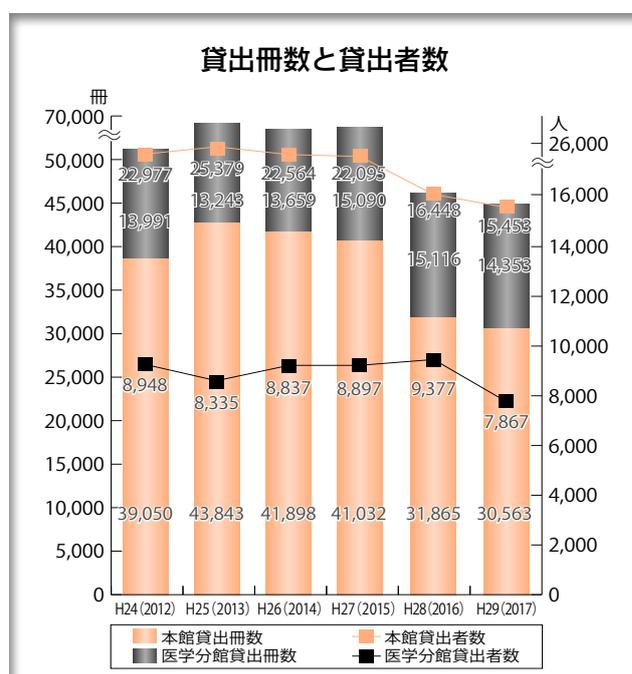
〈平成30(2018)年5月1日現在〉(人)

	本館	医学分館	合計
学生	5,808	1,102	6,910
教職員	1,120	1,416	2,536
合計	6,928	2,518	9,446

入館者数



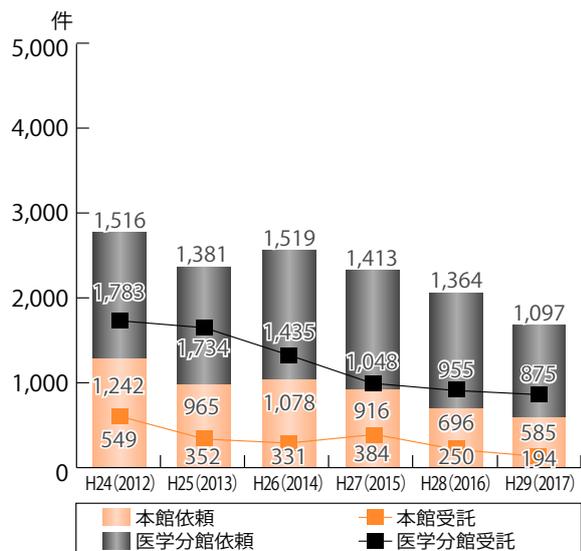
貸出冊数と貸出者数



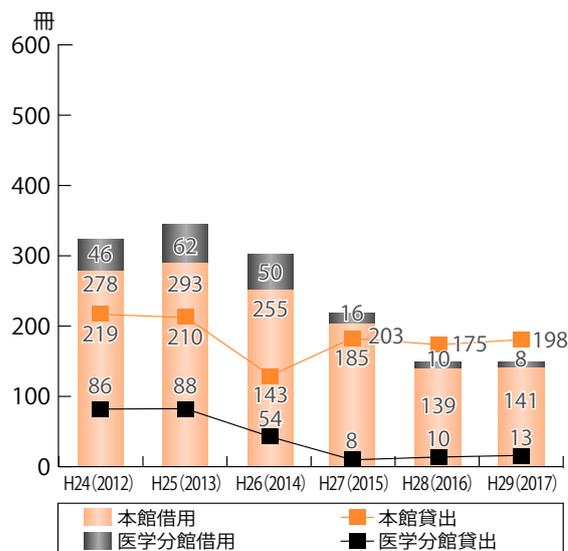
一般市民への貸出冊数



文献複写件数



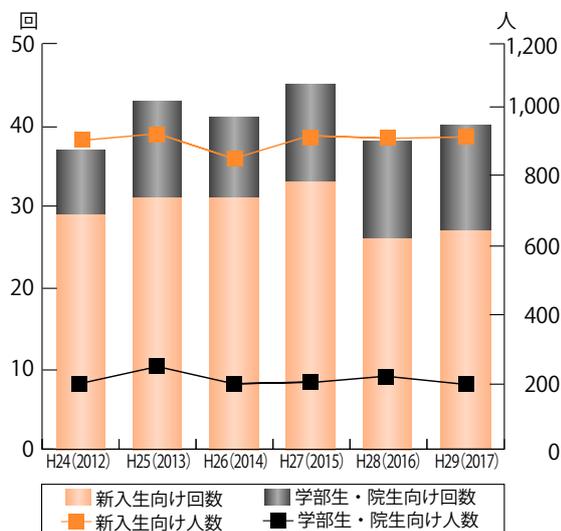
相互貸借冊数



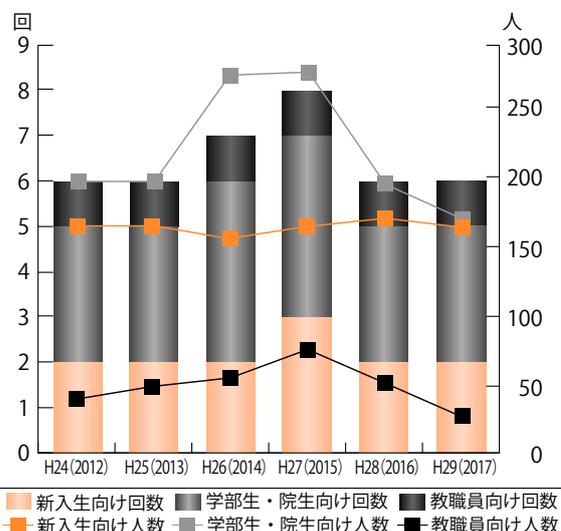
図書館オリエンテーション・講習会

			H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)
本館	新入生向け	回数	29	31	31	33	26	27
		人数	914	934	860	929	924	928
	学部生・院生向け	回数	8	12	10	12	12	13
		人数	190	241	191	195	213	207
医学分館	新入生向け	回数	2	2	2	3	2	2
		人数	166	166	156	169	172	166
	学部生・院生向け	回数	3	3	4	4	3	3
		人数	197	198	272	275	191	172
	教職員向け	回数	1	1	1	1	1	1
		人数	43	47	57	78	52	27
本館	参加総数		1,104	1,175	1,051	1,124	1,137	1,135
医学分館			406	411	485	522	415	365
参加総数(合計)			1,510	1,586	1,536	1,646	1,552	1,500

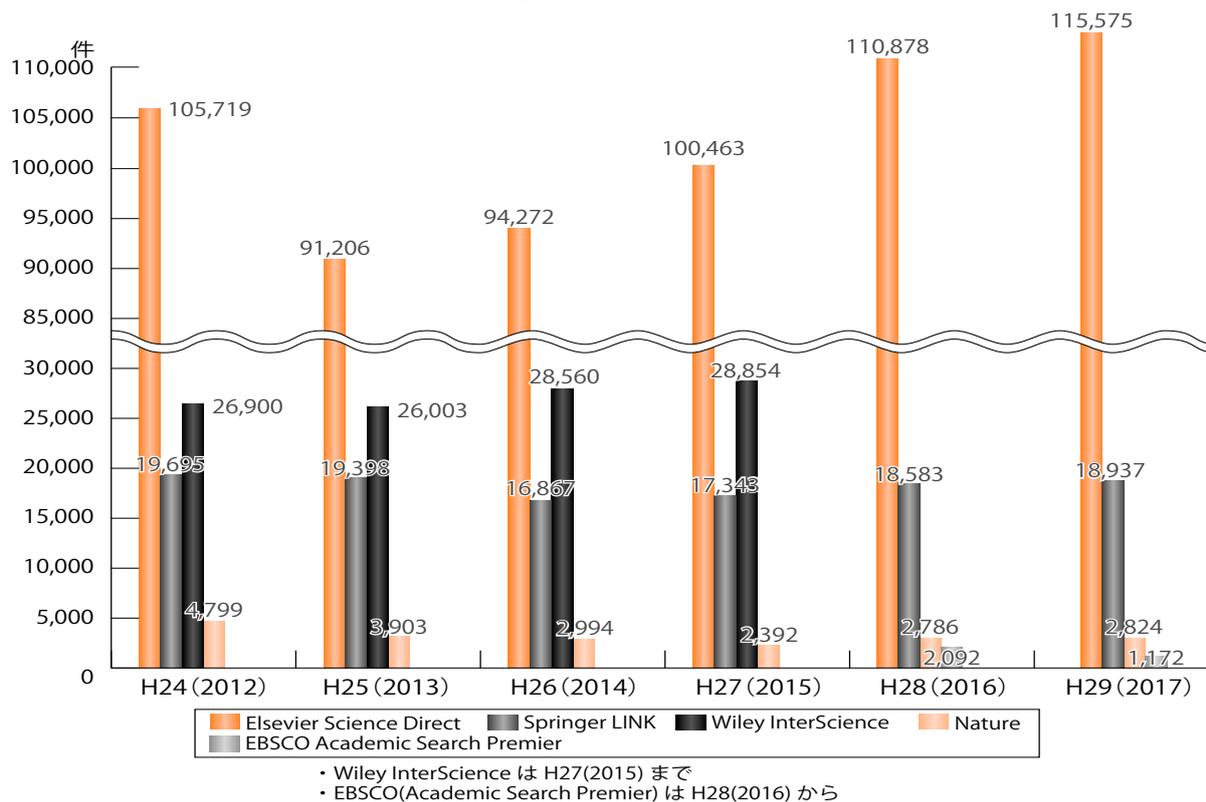
本館



医学分館



主要電子ジャーナル利用件数



文献データベース利用件数

	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)
CiNii	15,689 (66,710)	14,620 (74,540)	12,898 (83,492)	15,193 (84,676)	15,175 (80,003)	11,935 (49,177)
間蔵	1,023	743	1,040	781	730	1,035
ヨミダス歴史館	(7,675)	(1,230)	(1,127)	(892)	(453)	(918)
ジャパンナレッジ	155	155	824	1,030	647 (4,314)	791 (4,760)
日経テレコン	(688,304)	(248,024)	(312,650)	(285,606)	(147,244)	(285,718)
日経BP記事検索	(4,329)	(10,245)	(7,507)	(6,748)	(5,623)	(5,624)
医中誌Web	17,308 (51,252)	16,634 (55,738)	18,738 (65,725)	18,959 (66,889)	18,979 (64,202)	16,040 (51,640)
SciFinder	4,370	4,724	5,329	5,921	5,788 (27,944)	5,253 (27,886)
Ovid(MEDLINE, EBMR)	5,964 (11,207)	9,437 (21,541)	8,602 (29,528)	10,621 (33,178)	9,239 (15,826)	7,297 (10,499)
UpToDate	2,295	2,866	3,596	2,247	2,641	4,397
Cinahl	73 (264)	130 (260)	143 (362)	469 (516)	309 (1,344)	143 (316)
Scopus	11,031 (35,832)	11,164 (34,083)	12,903 (33,671)	13,305 (33,772)	12,011 (33,922)	10,413 (33,136)

*括弧内は検索回数または本文利用回数

受入資料紹介

学生用図書

平成29年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入了ました。

教員推薦図書 1,356冊 学生希望図書 280冊 図書館推薦図書 1,629冊 継続購入図書 636冊

寄贈図書

- ・ 芸術地域デザイン学部准教授 石井美恵
佐賀錦作品集：人間国宝古賀フミ(外56冊)
- ・ 医学部教授 宮本比呂志
看啐啄の学舎にて：教育研究余瀝 / 木本雅夫著
- ・ 国際交流推進センター准教授 山田直子
混合研究法入門：質と量による統合のアート / 抱井尚子著(外1冊)
- ・ 元 全学教育機構教授 諸泉俊介
マルサスマルマーシャル：人間と富との経済思想 / 柳田芳伸, 諸泉俊介, 近藤真司編
- ・ 平成29年度 医学部看護学科卒業生
国試過去問題集：看護師国家試験 [2018年版] / 杉本由香編(外2冊)
- ・ メトロポリタン美術館名誉コンサヴァター 梶谷宣子
Masterpieces from the Department of Islamic Art in the Metropolitan Museum of Art / edited by Maryam D. Ekhtiar ... [et al.] (外151冊)
- ・ 服部八重
立田山：句集(外9冊)
- ・ 高橋和雄
頻発する豪雨災害：防災・減災のための実践的アプローチ / 高橋和雄著

(敬称略・順不同)

人事異動

(平成29年4月2日～平成30年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	異動後	異動前
退職	29.9.30	木寺仙明		情報図書館課副課長
配置換	29.10.1	岸川芳之	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)	監査室係長 (監査主担当)
命	29.10.1	森 暁子	兼務：情報図書館課専門職 (企画・評価担当)	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)
昇任	30.1.1	森 暁子	情報図書館課副課長	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)
免	30.1.1	森 暁子	情報図書館課副課長	情報図書館課専門職 (企画・評価担当)
併任	30.4.1	山崎 功	附属図書館長	
"	"	池田 義孝	附属図書館副館長	
配置換	"	高田 勝波	経済学部主任	情報図書館課主任 (総務主担当)
採用	"	松尾 梨花	情報図書館課事務員 (総務主担当)	

図書館日誌(行事・会議・研修等)

平成29年

- 4月 1日 図書館情報誌「さらり」9号発行
- 4月19日 第47回 九州地区国立大学図書館協会総会(当番館:長崎大学 於:ホテルセントヒル長崎)
- 4月20日 第68回 九州地区大学図書館協議会総会(当番館:長崎大学 於:ホテルセントヒル長崎)
- 5月17日 国立大学図書館協会春季理事会(於:東京大学)
- 5月24日 平成29年度 第1回 附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会
「平成30年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」
- 5月26日 平成29年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会(理事館:福岡女子大学 於:福岡女子大学)
- 6月 7日 平成29年度 第1回 佐賀大学附属図書館運営委員会(メール会議)
～9日 「佐賀大学附属図書館運営委員会規程の一部改正について」
- 6月15日 九州地区国立大学図書館協会会員館職員研修WG(第1回)
(於:九州工業大学サテライト福岡天神)
- 6月22日 第64回 国立大学図書館協会総会
～23日 (当番館:千葉大学 於:TKPガーデンシティ千葉)
- 7月 3日 平成29年度 第2回 佐賀大学附属図書館運営委員会
「平成28年度 決算(案)及び平成29年度 予算(案)について」他
- 7月10日 平成29年度 第2回 附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会
「平成30年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」
- 7月19日 平成29年度 第1回 附属図書館選書専門委員会
「平成29年度 附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 7月28日 第13回 学術情報ソリューションセミナー2017 in FUKUOKA(於:西南学院大学)
- 7月28日 附属図書館(医学分館)は医学部消防訓練に参加
- 7月27日 平成29年度 佐賀県大学図書館協議会総会
(当番館:佐賀女子短期大学 於:佐賀女子短期大学)
- 8月 7日 平成29年度 第3回 附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会
「平成30年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」
- 8月24日 平成29年度 第1回 佐賀大学附属図書館医学分館運営委員会
「平成28年度 決算及び平成29年度 予算について」他
- 8月25日 平成29年度 第3回 佐賀大学附属図書館運営委員会
「平成30年度以降の電子ジャーナル及び文献データベースの契約について」
- 8月28日 学生選書ツアー(於:福岡市)

- 9月1日 平成29年度 第1回 福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番間:西九州大学短期大学部 於:西九州大学)
- 9月6日 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 2017年度版元提案説明会
～7日 (於:一橋大学)
- 9月7日 第7回 中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー
～8日 (於:鳥取大学)
- 9月27日 平成29年度 九州地区国立大学法人等テーマ別研修 (於:鹿児島大学)
- 10月1日 図書館報「ひかり野」41号発行
- 10月4日 平成29年度 第4回 佐賀大学附属図書館運営委員会
「電子ジャーナル及び文献データベース契約の在り方について」他
- 10月13日 これからの学術情報システムに関する意見交換会 (於:九州大学)
- 10月13日 第3回 佐賀県公共図書館職員研修会 (於:佐賀市立図書館)
- 10月14日 附属図書館 (医学分館) は医学部・附属病院災害訓練に参加
- 10月20日 IIFワークショップin九州 (於:九州大学)
- 10月20日 第65回 九州地区医学図書館協議会総会
(当番館:九州歯科大学 於:ステーションホテル小倉)
- 10月27日 平成29年度 九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議 (当番館:長崎大学 於:長崎大学)
- 10月30日 平成29年度 第1回 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会
「小城藩日記データベースの公開について」
- 11月2日 第4回 佐賀県公共図書館職員研修会・第89回 レファレンス研修会 (於:佐賀市立図書館)
- 11月5日 図書館月間講演会 (於:附属図書館 4階会議室)
講演会テーマ「佐賀 (佐嘉) を知る! -明治維新150年に向けて-」
- 11月10日 平成29年度 九州地区国立大学附属図書館館長・事務 (部・課) 長会議 (於:九州大学)
- 11月20日 平成29年度 第2回 附属図書館選書専門委員会 (メール会議)
～27日 「本館学生用図書 (学科推薦) の購入について」
- 12月14日 平成29年度 第4回 附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会 (メール会議)
～19日 「文献データベース スコーパス (エルゼビア社) の3年契約について」
- 12月15日 平成29年度 国立大学図書館協会地区協会助成事業九州地区事業講演会
(於:熊本大学)
- 12月19日 貴重資料講演会 (於:附属図書館 4階会議室)
講演会テーマ「小城鍋島文庫とは??」

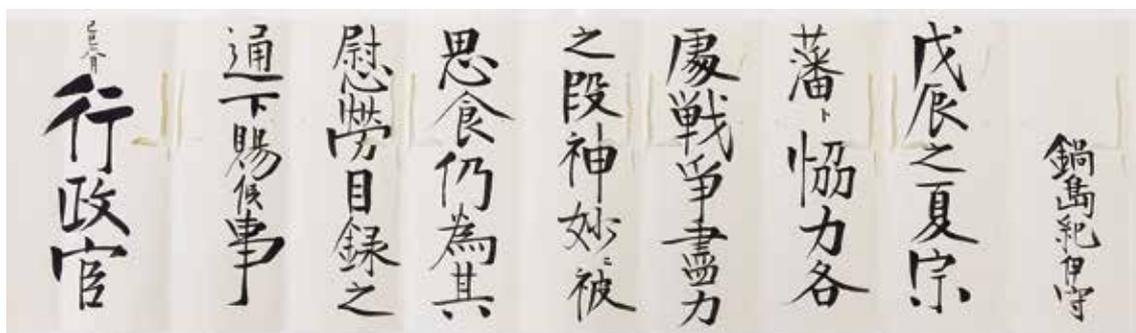
- 12月20日 平成29年度 第1回 附属図書館評価専門委員会(メール会議)
～26日 「平成28年度 佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告書について」
- 12月21日 平成29年度 国立大学図書館協会シンポジウム(於:東京大学)
- 12月25日 平成29年度 第5回 佐賀大学附属図書館運営委員会
「スコーパスの3年契約について」他
- 12月27日 附属図書館(本館)は本庄キャンパスでの防災訓練に参加

平成30年

- 1月18日 平成29年度 第3回 附属図書館選書専門委員会(メール会議)
～25日 「本館学生用図書(学科推薦・教員推薦)の購入について」
- 2月 6日 平成29年度 第2回 福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:聖マリア学院大学 於:聖マリア学院大学)
- 2月 8日 平成29年度 佐賀大学苦情クレーム対応研修(於:佐賀大学)
- 2月20日 平成29年度 国立大学図書館協会地区協会助成事業(中国・四国地区)ワークショップ
(於:岡山大学)
- 2月28日 佐賀大学附属図書館自己点検・評価に関わる学外者検証(於:佐賀大学)
- 3月 5日 平成29年度 第5回 附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会
「平成31年度以降の電子ジャーナル及び文献データベースのあり方について」
- 3月 6日 附属図書館(医学分館)は医学部消防訓練に参加
- 3月15日 平成29年度 第2回 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会
「小城藩日記データベースの公開について」他
- 3月19日 平成29年度 第6回 佐賀大学附属図書館運営委員会
「平成31年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」他

貴重書紹介

小城鍋島文庫「行政官達(戊辰軍功賞典につき)」



解説

慶応4年(1868)正月3日、鳥羽・伏見の戦いが勃発した。翌年5月の箱館戦争終結まで続いた戊辰戦争で、佐賀藩は新政府軍として戦い、上野戦争や会津戦争で藩所有の最新兵器アームストロング砲が威力を発揮したことはよく知られている。

支藩である小城藩に、最初に本藩から出兵準備が指示されたのは、閏4月15日だった。横浜や京都での異変に備えるのが目的だった。だが実際に出兵を命じられたのは5月17日で、出兵の目的も変わっていた。5月7日に、藩主鍋島直大は新政府から下総・下野の鎮撫を命じられ、旧幕臣脱走兵などにより治安が安定しない北関東の鎮圧を任されていた。小城藩は、その鎮圧のために多久与兵衛(親類同格)・鍋島監物(家老)・鍋島左馬助(同)ら本藩重臣の軍団とともに出兵を求められたのである。

ところが、横浜・京都から国許へ戻った藩士の情報により、小城藩の出兵は一旦見合わせとなった。その内情はよく分からないが、次に出兵が命じられたのは7月18日で、今度の目的は東北戦争への出兵だった。小城藩は、刻々と変化する戦況と本藩の出兵状況の影響を受け、数度の計画変更を経てようやく出兵することとなった。

8月11日の夜、藩兵420人・小荷駄方2人・足付夫丸10人が甲子丸に、藩兵280人・小荷駄1人がチャーターした英国船に乗って久原(伊万里市山代町)を启航した。

8月21日に秋田藩領船川港に到着した小城藩兵は、24日に新政府側の秋田城下に入った。小城藩兵は、本藩や秋田藩兵とともに、秋田藩領に進撃してくる奥羽越列藩同盟側の盛岡藩兵と戦闘を繰り広げた。新政府軍の攻勢に押された盛岡藩は、9月22日に兵を撤退させ、24日に降伏した。10月10日、小城藩兵は参謀前山清一郎(佐賀藩士)に率いられ盛岡城を接收した。

この小城藩兵の活躍に対して、新政府からは翌明治2年6月2日に、金5000両の賞典金が藩主鍋島紀伊守直虎へ下賜された。本史料は、この時の通達書である。その文言には「戊辰之夏宗藩ト協力、各処戦争尽力之段神妙」とあるが、多額の戦費や戦死した兵士の命の「対価」としてこの賞典金はどのように位置付けられるだろうか。

(地域学歴史文化研究センター 吉岡誠也)